

プシケおおたニュース

2021年 8月号 NO.41

社会福祉法人 プシケおおた事務局
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 4-4-1
TEL : 03-5700-6352
FAX : 03-5700-6753
E-mail psyche-ota@mbj.nifty.com
HP <http://www.koujiya-center.com/>

◆法人の理念◆

「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」

～私たち（プシケおおた）は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、
当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します～

◆運営方針◆ 職員行動指針；

- ① 当事者中心
- ② 自己決定
- ③ 権利擁護
- ④ 啓発
- ⑤ 協働
- ⑥ 創造
- ⑦ 研鑽
- ⑧ Win-Win



理事長就任にあたって

プシケおおた 理事長 廣瀬 ^{たつゆき}達志

プシケおおたは1983年の「あけぼの会」発足以降、20年前の法人化を経て今日に至っています。
プシケおおたのこの数十年の歩みは、障害者をめぐる世界の動きや我が国の法整備・施策進展と、ほぼ軌を一にして拡大、発展してきました。

日本では1970年に「障害者基本法」が制定されましたが、その後の国際的な障害者の人権擁護の動きの中で、2006年に国連総会で「障害者権利条約」が採択されました。

我が国は、この条約の批准に向けて国内法の整備が大きく進み、2011年の「障害者基本法」の改正、2012年の「障害者総合支援法」の成立、2013年の「障害者差別解消法」成立および「障害者雇用促進法」改正、そして2014年には「障害者権利条約」批准書を国連へ寄託するに至りました。

当法人はこの変化を更に進展すべきものと受容しながら、この間一貫して、主に精神障害者を中心に障害のある人の人権を守り、誰もが安心して自分らしく暮らし、当たり前前に働いて様々な活動に参加できる地域づくりを目指して活動を続けています。

職員の不断の努力の積み重ね、先輩方の継続したご支援、「プシケおおた賛助会」のご支援など、この活動を支える多くの方々の思いが当法人を育ててくれています。また、東京都・大田区からも暖かいご理解と相当の補助を頂き、プシケおおたはその担当事業分野において、未熟ながらも大田区になくはならない団体にまで育ってきました。

超高齢化社会の到来や、それに伴う8050問題の表面化、待ったなしの地球環境問題、感染症パンデミックや大規模災害への対応、格差社会の解消、SDGsの実現など、時代と社会が大きく変化していく現在、当法人の役割も益々大きくなってきています。

喫緊の社会的要請としては、人権を基礎に、障害者福祉と医療や介護の連携や地域社会との連携などに充分対応できる体制整備が必要であり、その模索や実験も不断に続けていくつもりです。特に「大田区では福祉の他分野に比べて対応の充実度がやや弱い」といわれる精神障害の福祉分野を中心に引き続き事業を進展させていきたいと考えています。

そのためにも安定的な法人経営と事業運営が必要ですが、現状ではそれを維持する予算経費も含めて経営基盤は決して安定しているとは言えない状況です。職員が働きやすい職場環境の中で力を発揮し法人理念を実現するため、今後とも社会変化に対応しながら持続可能な法人の体制を確立していく必要があります。

組織や事業の見直しや収支を踏まえた新規事業の検討なども必要であり、今後数年間の対応がキーポイントになるであろうと考えております。

私事、2021年度から石井理事長に替って理事長を仰せつかりましたが、未熟がゆえに法人経営でご心配、ご迷惑をお掛けするやも知れませんが、誠心誠意尽力していくつもりです。

誰もが取り残されることのない開かれた地域社会実現のため、今後とも職員を含む関係者各位、行政、地域社会の団体、個人、企業など各界各層の多くの皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

2020年度 事業報告

こうじや生活支援センター・かまた地域生活支援センター

相談事業及び地域活動支援センター I 型事業

登録者	こうじや生活支援センター: 181名 かまた生活支援センター: 262名										
相談事業	基本相談(件)		面接	電話	訪問	同行	専門相談	連絡調整	ケア会議	生活支援	
		こうじや	450	2,843	171	28	14	3,845	43	1,610	
		かまた	515	2,863	95	15	5	3,335	36	1,309	
	指定特定相談	計画相談件数: こうじや 176 ・かまた 219 計画作成数: こうじや130 ・かまた103 モニタリング件数: こうじや354 ・かまた 182									
	指定一般相談	地域移行件数: こうじや 5 ・かまた 3 地域定着件数: こうじや12 ・かまた 2									
オープンスペース	開所日数: こうじや 131日・かまた 120日、利用者数: こうじや1,585 人・かまた 1,761人、1日平均利用者数: こうじや10.1人・かまた14.7人										
行事(参加者数)	こうじやセンター祭り中止 餅つき交流会中止 焼き芋会中止										
夕食サービス	こうじや実施中止										
生活サポート	利用者数: こうじや 22人・かまた 2人、 従業時間: こうじや1,079 分・かまた267分										
地域交流・プログラム等	実施回数: こうじや64 回・かまた 52回、 利用者数(延): こうじや 304人・かまた172人										
ボランティア	実人数: こうじや 2人・かまた3人、 延人数: こうじや37 人・かまた 16人										
実習生受入	2020年度においてかまたセンターはコロナ禍で実習生の受け入れを中断。PSW実習生: こうじや4 人										

<こうじや生活支援センター>

2020年度は新型コロナの影響で生活ががらりと変わった一年だった。

こうじや生活支援センターも夕食サービスの中止や、プログラムを減らし、開所の時間や曜日の限定をしたことで、来所者の減となったが、なかなか来所ができない利用者へ、お便りや号外を作り送付したり、更新のお知らせに一言書き添えたりと、できる範囲で連絡をし、それを機に連絡や来所をされる方もいた。

地域の交流活動はできない1年だったが、地域包括支援センター糶谷の主催で行われたウォークラリーのポイントとなったり、ウォークラリーへの参加もすることができた。

計画相談が始まり、必要な福祉サービスに繋げる支援をしてきたが、個人でネットなどを利用して個人事業主として仕事をする方や、芸術活動の報告に来られる方もいた。今後も福祉の枠にとらわれない、視野を広げた支援を検討したい。

<かまた生活支援センター>

2020年度のかまた生活支援センターは地域活動支援センター I 型の生活支援事業と、計画相談や地域移行・地域定着といった個別給付系事業との両立が難しい現状は継続した課題であります。コロナ禍中でも最大限可能なフリースペースの運営や基本相談を大事に行って参りました。

新型コロナウィルスの影響で1回目の緊急事態宣言下では4月5月の2カ月間はフリースペースを閉所する形を取らざるを得ず、電話相談や予約相談と、給付事業の計画相談を状況に応じモニタリング月をずらしたり、電話モニタリングで対応しました。地域移行支援では病院に訪問できず、支援が一旦停止してしまったり、外出制限がありグループホームの見学や体験宿泊が延期となる事があり、退院支援がスムーズに行なえず、もどかしくもあった1年でした。

6月以降は感染対策を行い、週3日のフリースペース開所を再開し、利用者が感染リスクを抑える行動が取れるように、フリースペースに職員を配置。フリースペースに職員がいる事で、日ごろ発信が控えめな利用者と職員が会話をする機会も増え、相談へとつながりやすくなりました。電話相談は増加、来所人数も1日平均14.7名で、フリースペースや相談のニーズをより強く感じた1年でした。

地域生活安定化支援事業

支援実施者延数	2291人	訪問・面接・同行など	237件	電話	744件
家族支援	30件	関係機関調整	1224件	その他の支援	15件

地域生活安定化支援事業は、2020年度までは東京都と大田区の包括補助事業でしたが、2021年度からは大田区の単独補助事業として、①退院することに自信を無くしている方の意欲喚起、②退院に困難を抱える方の退院支援、③退院後、地域で不安定な状況で生活されている方の地域生活支援（自立生活援助事業含む）、及び④ショートステイ事業を行う事業です。大田区は人口72万人の巨大な特別区ですが、単科の精神病院は1か所（62床）しかなく、入院が必要になった方の多くは、多摩地区や川崎市、練馬区、板橋区などの遠方の病院に入院になります。そのため、ご本人の体調が回復し退院できるようになっても、ご自宅への退院の準備や、グループホーム探し、地域生活に段階的に体と心を慣らしていく事が難しい状況にあります。国の制度で『地域移行支援給付』という事業もありますが、近くの病院も遠くの病院も給付額は一緒で、補助を受けることなく運営している事業所が、移動に時間が掛かる遠方の病院での支援を行うことは、財政的に困難な状況にあります。当事業は補助事業という利点を生かして、遠方の方や退院の準備に時間のかかる方の支援を丁寧に行っていきたいと考えています。

ホームブシケ

入居者数	30人(3月末)									
2020年度退居者	10名	退居後の状況	アパートでの単身暮らし	4名	施設	3名	入院	2名	その他	1名
2020年度新規入居者	8名	入居前の状況	入所施設	2名	地域から	2名	入院	4名		
ショートステイ(法人独自の事業)	入院中の体験宿泊 6名(実)/41日(延べ)(内、地域移行 3名/24日)・地域からの利用 4名(実)/19日(延べ)									

2020年度は新型コロナウイルスの影響により職員体制も整わず、サテライトの新設、ショートステイの利用、入退居全般について延期や中止など支援が滞る一年となってしまった。

緊急事態宣言下ではショートステイ利用を中止した（4～6月、1～2月の利用者はゼロ）。しかし、昨年度と利用者は同数ながら利用日数は20日多かった。ショートステイは2021年度より地域生活安定化支援事業への事業移行となるが、引き続き連携を図っていく。

入退居においても、入居者ミーティング、スタッフミーティング、夕食会、見学受け入れ、体験入居等について中止や延期をせざるを得ない状況が続いた。しかし、日々の検温、消毒の徹底を図り、感染の防止に努め、年度後半は緊急事態宣言下でも入退居に関する支援（見学、入居選考会、体験入居等）は受け入れることとした。コロナの状況を見ながら、入居前後問わず医療や関係機関と連携してケア会議や担当者会議を重ねてきた。グループホームで生活する中で、受診の同行同席、関係機関との連絡調整などを行い、退居後も地域生活を送り続けられる協力が得られるよう支援を行った。自立生活援助事業「はるまち」の運営を開始し、OBOG支援での連携を図ることができた。

職員体制では、例年以上に職員間での情報共有が難しかった。また、各連絡会や研修の開催・参加は大幅に減ってしまった。引き続き、働きやすい環境づくりやリスクマネジメントの徹底に取り組んでいく。

クッキングワーク街の駅

利用登録者数	37	1日平均通所者	9.2	平均年齢	50歳	開所日数	238
通所ペース	週1日…11名、週2日…14名、週3日…9名、週4日…3名、週5日…2名						
配食サービス全体	実施日数	149	食数	年間	5,929	1日平均	38.3
	昼食弁当	93		年間	4,159	1日平均	44.7
	夕食弁当	56		年間	1,716	1日平均	30.6
作業内容	調理・配達・回収・ポスティング・洗い物など						

2020年度で事業所開設から8年目、登録者数は37名（新規利用者4名、退所者4名）となりました。平均工賃は緊急事態宣言中の作業休止期間（4～5月、1～2月）の影響で前年より減少しました。休止期間中は、在宅サービス提供・電話相談を行い、1～2月には臨時ボーナスを支給するなど対応を行いました。

配食では作業休止から再開後、食数に大きな減少なく平均食数では去年を上回りました。毎週金曜日はメンバーが中心となり、作業を行っています。また2020年度より、おおむすび（大田区生産活動支援施設連絡会）に参加し、パウンドケーキの販路が拡大しました。

2020年度は、新型コロナウイルス・緊急事態宣言の影響により、作業休止の選択をせざるを得ない状況があり、利用者にとっても通所のペースが崩れる要因ともなりました。できる限りのフォローや対応を行いました。至らなかつた点も多くありました。

2021年度も新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、利用者それぞれの状況に合わせて通いやすい場所・関係を構築していきます。

2020年度 決算報告(法人全体)

法人単位事業活動計算書
(自)令和 2年 4月 1日(至)令和 3年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	2,859,610	4,191,065	△ 1,331,455
		障害福祉サービス等事業収益	221,639,198	232,080,219	△ 10,441,021
		経常経費寄附金収益	1,490,000	865,000	625,000
		その他の収益	0	1,800,000	△ 1,800,000
	サービス活動収益計(1)		225,988,808	238,936,284	△ 12,947,476
	費用	人件費	159,917,109	155,695,708	4,221,401
		事業費	7,282,085	6,359,930	922,155
		事務費	56,366,767	53,131,595	3,235,172
		就労支援事業費用	2,795,507	4,187,880	△ 1,392,373
		減価償却費	6,439,963	6,546,935	△ 106,972
国庫補助金等特別積立金取崩額		△ 3,149,690		△ 3,149,690	
サービス活動費用計(2)		229,651,741	225,922,048	3,729,693	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		△ 3,662,933	13,014,236	△ 16,677,169	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	6,023	5,691	332
		その他のサービス活動外収益	247,953	856,513	△ 608,560
		サービス活動外収益計(4)	253,976	862,204	△ 608,228
	費用	その他のサービス活動外費用		1,000	△ 1,000
		サービス活動外費用計(5)		1,000	△ 1,000
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		253,976	861,204	△ 607,228	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		△ 3,408,957	13,875,440	△ 17,284,397	
特別増減の部	収益	特別収益計(8)	0	0	0
		固定資産売却損・処分損		1	△ 1
	費用	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)		△ 3,149,691	3,149,691
		特別費用計(9)	0	△ 3,149,690	3,149,690
特別増減差額(10)=(8)-(9)		0	3,149,690	△ 3,149,690	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		△ 3,408,957	17,025,130	△ 20,434,087	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		112,711,526	95,686,396	17,025,130
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		109,302,569	112,711,526	△ 3,408,957
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)				
	その他の積立金積立額(16)				
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		109,302,569	112,711,526	△ 3,408,957	

財産目録

2021年3月31日

I 資産の部		II 負債の部	
1、流動資産	115,619,017	1、流動負債	21,073,369
現金預金	96,320,154	未払金	13,369,407
未収金	19,194,465	預り金	902,121
立替金	78,683	賞与引当金	6,801,841
前払金	25,594	2、固定負債	0
仮払金	121		
2、固定資産	55,031,259		
基本財産	10,000,000		
その他の固定資産	45,031,259		
資産合計	170,650,276	負債合計	21,073,369
差引純資産			149,576,907

プシケおおた役員紹介

2021年6月15日の評議員会にて、法人役員の任期終了に伴い、役員の改選が行われました。2021年度からの役員の皆様を紹介させていただきます。

理事・監事 任期：2021年6月15日～2023年定時評議員会まで

理事長	廣瀬達志 (たつゆき)	理事	石井一平
理事	奥野求理	理事	松本幸則
理事	小山廣子	理事	山岡道夫
理事	岡本 洋	理事	平野康雄
理事	二村優子		
監事	齋藤佳代子	監事	安元祐一郎

長く法人の理事長を務めてくださった石井一平様が理事長職を退任され、新理事長に監事の廣瀬達志様が就任いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。

評議員 任期：2021年6月15日～2025年定時評議員会まで

評議員	美谷島邦子	評議員	川崎洋子
評議員	今村まゆら	評議員	入野野祐子
評議員	高橋明紀代	評議員	服部恵子
評議員	鈴木啓司	評議員	関 安子
評議員	濱 洋子	評議員	棧敷洋子

石井前理事長様 長きにわたりありがとうございました。
今回、評議員を退任された金高様、野口様、六車様、4年間ありがとうございました。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



新入職員紹介



土屋かおり

去年、12月よりホームプシケの非常勤として勤務し、今年度より本部に常勤として勤務させていただくことになりました看護師の土屋と申します。現在は、グループホームの世話人とかまた生活支援センターでのお手伝いをさせて頂きながら、地域に根づいた支援ができるよう取り組んでいます。未熟者ではございますが、利用者さんやご家族、職員、他多職種の方々と共に考えながらより良いケアが提供できるよう精進していきたいと思っております。

異動職員紹介

渡辺 紀子

急でしたが、この4月にグループホーム所属から地域生活安定化支援事業所所属となりました。地域移行支援にも携わるようになり、現実を目の当たりにし苦悩しながら、引き続き自立生活援助事業「はるまち」の担当もしています。よろしくお願いいたします。

復職職員紹介

和知 綾子

4月中旬に育休より復職いたしました。コロナ禍の生活では人と接する機会が減っていましたが、復職後色々な方と関わり合いながら人と接する楽しさを改めて実感しております。8年ぶりのグループホーム勤務で、中々慣れず戸惑う日々を送っていますが、皆様に支えていただきながら、自分のペースで頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

こうじや生活支援センター

「福祉のまち糀谷 夏のお祭り」と共催していたセンター祭りですが、昨年引き続き今年も新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、中止となりました。

センターでも夕食サービスの中止や減らしているプログラムもありますが、音楽会、アクセサリー、手話サークルと状況をみながら再開していく予定です。これからも職員、メンバーさん共々感染対策に取り組みながら、楽しんでいきたいと思ひます。



エンゲーリングで
育てたイチゴが大
豊作でした。



毎年恒例の七夕飾
りを今年も行いま
した。



今年はミカンの木にたくさ
んの花が咲いて、今は小さい実
がなっています。



利用者さん発信で七夕の飾りつけを行いました かまた生活支援センター



かまた生活支援センターでは利用者さんとスタッフとで運営ミーティングを毎月継続して行っており、集まった人同士で意見交換をしています。その中で「コロナ禍でも季節感を感じられるイベントを行えたらいいな」という利用者さんからの発信があり、話し合いを重ね、この度七夕の飾りつけをしようとなりました。七夕の飾りつけをするために短冊や笹はどのようにして用意するのか、またいつ笹を飾るのか等の準備が必要になりますが、自分たちが活動を行うとしたらどうするかをより具体的に考えたことで準備に必要な計画を立てていました。他の人の意見を聞き、話し合いを重ねたことで視点が広がり、意見を取り入れる中でイベントを実現する準備をよりスムーズに行えました。今後も話し合いの場を大切にしていきたいです。

地域生活安定化支援事業

テーマ：コロナ禍で病院の訪問はどんな感じで進めているか

新型コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言により、病院への立ち入りやグループホームの見学、体験利用等がほとんど行えなくなり、地域移行支援そのものが難しい状況となった。感染状況も、立ち入り・面談等に対する対応も、病院によって異なっており、病院ごとの個別の対応が必要となった。集団感染が発生して全く出入りができなくなった所もあれば、近隣への外出には許可が出ている所もあるため、支援が可能な病院の、支援が可能な事業利用者の方に対する支援を継続して行うことしかできなくなった。たとえ開放病棟であっても、通常行える日中の院外への外出等が一切禁じられた軟禁に近い状態となっているので、入院中の方にとっても入院の継続がさらに苦しいものとなっている。



コロナ禍のホームでは・・・

新型コロナウイルスが蔓延してから早くも一年以上が経ちました。当初は未知のウイルスということで、ほとんどの人が今まで経験のなかった恐怖や不安を感じたと思います。

ホームプシケの入居者も日常を変えることも余儀なくされ、いつもしていた買い物も出来なくなったり、日中活動がお休みになったりする方もいて、部屋の中で過ごす時間が増えていました。職員の方も新規見学・入居者の募集を中止、出勤人数を絞り、巡回をしながら消毒作業も行うようになりました。振り返ってみると、一生懸命に変化へ対応していく日々だったと思います。

そんな新型コロナウイルス流行初期でしたが、最近のホームプシケのこともお伝えしようと思います。まず入居者についてですが、日中活動もほとんど再開しており、昼間であればお店も開いているので飲食や買い物も出来、日常に戻りつつある印象です。外出時にマスクを着用したり、毎日の検温、帰宅時には手洗い、アルコール消毒をするといった一作業も、最初は慣れない様子でしたが、もうすでに日常の一部になっているようです。

職員の方では施設のアルコール消毒作業が日々のローテーションに組み込まれたり、入居者の毎日の体調・体温の把握を行うようになりました。当初はぎこちなく行っていましたが、今では新しい日常に組み込まれ、スムーズに行えるようになりました。また、もし入居者の中で新型コロナの陽性が出た場合は職員が様々な対応をすることになっています。現時点では一人も陽性者は出ていないので実際に行動したことはないのですが、常日頃からイメージしておくようにしています。

そのほかに、新規入居者の見学や入居の受け入れを再開しました。現在メゾンしろとホームめいという女性のみ入居の通過型のホームに空室がございます。グループホームをお考えの方がいらっしゃいましたらぜひご連絡をお待ちしております。

クッキングワーク街の駅

配食サービスを休まず続けています

クッキングワーク街の駅では、平常通りお弁当作り・配達を行っています。昨年度の緊急事態宣言下には作業を休止しておりましたが、今年度は感染防止対策をしたうえで作業を継続していました。

おかげさまで新規のお客様も増え、街の駅にも新たなメンバーが加わりました。未だ続くコロナ禍にあっても以前と変わらずに忙しい日々を送れていることのありがたさを噛みしめながら、今年度も頑張っていきます。

編集後記 ；

新型コロナウイルスが終息しないまま、今年も半年以上が過ぎました。年齢を重ねると1年があっという間に過ぎていくと言いますが、最近は本当にその言葉を実感し、1日1日を大切に過ごしていきたいと感じています。今はコロナの影響で自由に過ごせる時間が制限され窮屈さを感じながらの生活ですが、落ち着いたら何しようか考えてやりたいことリストを作成して、それを実現できる日を楽しみに過ごしています。

現在は新型コロナワクチンの接種が開始されてはいるものの多くの方々にワクチンが行き渡るにはもう少し時間がかかりそうです。ワクチン接種により新型コロナウイルスが終息に向かって、少しでも安心して穏やかに過ごせる日が1日でも早く来ることを願っています。 (和知)

2020 年度事業報告

ワクチン接種が始まりましたが、新型コロナ感染者数がなかなか期待通りの減少には至っていませんが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

コロナの影響もあってことしの賛助会役員会は、遅れましたが、廣瀬達志法人新理事長にも参加いただき、7月12日(月)に開催いたしました。

そこで、昨年度2020年の活動報告および決算報告の承認と、今年度2021年度の事業活動と予算を話し合いました。

なお、総会の開催はコロナの影響などもあり、開催を見送りとしました。

昨年度は、主に映画「オキナワへいこう」上映会に対して、協賛活動を実施しました。

また、法人プシケおおたへの寄付は予算通りの20万円とし、上記映画上映会への協賛広告で6千円の出費がありました。

2021 年度事業方針

2021年度の事業方針は、コロナ感染の推移をみながら、映画上映会などのイベント開催が具体化すれば、賛助会での協賛を検討していきます。

詳細が決まりましたら、改めてご案内いたします。

また法人プシケおおたへの寄付は昨年同様に20万円の寄付を実施します。

2021年度予算(案) 2021年4月1日~2022年3月31日

収 入	個人会員収入(80口×2,000)	160,000	
	団体会員収入(4口×10,000)	40,000	
	カンパその他の雑収入	10,000	
	2020年度よりの繰越金	344,506	
	合 計	554,506	
支 出	法人プシケへの寄付		200,000
	総会・イベント費等		10,000
	講演謝礼		
	茶菓代		
	その他		
	振込書用紙代		1,200
	振込料金		10,000
	郵券・送料等		20,000
	予備費		313,306
	合 計		554,506

2020年度決算(2020年4月1日~2021年3月31日)

収 入	2019年度よりの繰越金		240,180
	個人会員会費 82名(121口)		244,000
	団体会員収入 4団体(6口)		60,000
	カンパその他の雑収入		22,000
	合 計		566,180
支 出	法人プシケへの寄付		200,000
	総会・イベント費等		
	広告協賛費		6,000
	振込書用紙代		0
	振込料金		9,838
	郵券・送料等		836
	会計手当(5,000×1回)		5,000
	2021年度への繰越金		344,506
	合 計		566,180

プシケおおた賛助会費を2021年1月15日から2021年7月31日までに納入して頂いた方

2020年度分 個人会員：3名

2021年度分 個人会員：12名

♥心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いします♥

代表 高橋明紀代

入会のご案内

プシケおおた賛助会は、社会福祉法人プシケおおたの運営の維持・発展のために支援協力することを目的として活動を行っています。当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2000円からで、何口でも可能です。入会を希望される方は、下記口座に会費をお振込みください。

郵便振替； 口座番号 00150-5-663423

加入者名 プシケおおた賛助会